学生会員勧誘と育成のお願い

益田 隆司
電気通信大学／情報処理学会会長
masuda@office.uec.ac.jp

下表をご覧になって下さい．情報処理学会を含めたいくつかの学会の正会員数，学生会員数です．人数でみても，正会員に対する比率でみても情報処理学会の学生会員は少ないことが分かります．学生会員は将来の会員への孵化前の姿です．アカデミアの世界に入る学生もいるでしょうし，産業界に入る学生もいるでしょう．そういった人材に学生時代に会員になって学会活動に参加し学会に親しみをもってもらうことは，学会のためのみならず，学生自身にとっても，その業界の繁栄にとってもきわめて重要なことのはずです．他学会では学生会員の獲得に力を入れていることが表からも十分に読み取れます．

情報処理学会は，今年創立45年を迎えますが，その設立の経緯から，大学等アカデミア系の会員に加えて，大手の計算機メーカの技術者が多数会員を構成していました．平成3年には32,000人を超える会員を要する学会にまで急成長をしました．しかしながらその後は，毎年600～700人程度の減少を続け現在に至っています．バブル崩壊以降，会員の減少はどの学会にも共通していることですが，本会の減少の割合はより急激でした．世の中がIT全盛時代というときに情報処理学会の会員減少が顕著であることは一見奇妙にも感じます．しかしながらその原因ははっきりしていて，一言でいうならば，企業会員の減少です．アカデミアの会員と企業系の会員の比率は，会員ピーク時には，1：2，あるいは，1：3でした．その比率が現在，1：1に近付きつつあります．1990年前後から，情報分野の環境が，大手メーカ中心の汎用大型機の形態から，パソコン，ワークステーション，ネットワーク，ユビキタスといった言葉に代表される形態に急激な変化をしました．計算機技術の影響が社会の隅々にまでいきわたる時代になりました．大手メーカに所属しないIT技術者の数も急増しています．このような環境の中，大手企業技術者の会員が減少する一方で，IT業界の技術者の入会が少ないというのが現状です．

			情報処理学会	電子情報通信学会	日本機械学会	日本化学会	人工知能学会	日本物理学会
会員数（人）	平成13年度	会員	25,206	36,740	39,532	35,079	2,944	15,471
		学生会員	1,903	4,415	4,367	6,706	512	2,887
	平成14年度	会員	24,342	37,206	38,340	34,899	2,869	15,032
		学生会員	1,805	4,719	4,379	5,568	539	2,677
	平成15年度	会員	23,732	35,949	37,740	34,609	2,789	15,461
		学生会員	1,958	4,824	4,535	5,408	493	2,147

表-1　学生会員数に関する各学会比較表

急激な会員減少は学会にとっても深刻です．会長に就任後，何とか会員減を食い止めようと，IT業界も含めていくつかの場に足を運び，学会に関心を持って下さるようお願いもしてきました．しかしながら技術者としてできあがっている方々に学会を紹介して，会員になろうとの決断をしていただくことは容易なことではありません．まず学会が何をしてくれるかを求められます．現在の会誌は非常に評判のいいものですが，それでもそこから得られる情報だけのために入会をして下さるということは多くありません．かといって多くの事業がボランティアベースでなされている学会にとって，新たなサービスを増やすことも容易ではありません．アカデミアにいる方々にとっては，学会は研究発表の場として必須のものですが，産業界の方々にとっては，必ずしもそうではありません．会誌を購読することだけならば，情報を入手する手段が多様化している現在，会費を払って会員になることのメリットは決して大きくはないかもしれません．やはり会員になっていただく根拠は，その分野の専門家の一員であるとの誇りを感じていただくこと，あるいは，何らかの学会活動に直接的，間接的に参加していただくこと，同時に，その活動を通して学会という横断的な場での人的交流に価値を見出していただくことにあるのではないかと思います．

このような背景と活動の中で，将来に向けての学会活性化の一貫として平成16年1月に，学生会員の増強と育成を目的としたタスクフォースを設置いたしました．そして，学生会員を現在の50強％増の3,000名にすることを当面の目標として掲げ，支部長をはじめとする各支部の方々，あるいは，研究会の運営委員の方々を中心に学生会員増のお願いをしてきました．

学生会員勧誘のお願いの作業の中で多くの方々のご意見をお聞きしているうちに，会員は学会が自らの手で育てるものだということを強く感じるようになりました．自分は情報処理学会に育てられたので，その恩返しのつもりで協力したいとおっしゃって下さったお返事を何人もの方からいただきました．現理事の久世和資さんは，学生時代に中田育男さんの勧めで入会し本当によかったと言われていました．学生会員数を増やすことは結果であって，より大事なことは，学生時代に入会してもらって，その学生を学会の場で育てるという視点が重要なのだと思います．学生の多くは将来IT関連の職場に入ります．学生会員として活動していた経験を持つものは，産業界に入ってからは学会に新たな分野を切り開いてくれる可能性もあります．数学，物理，電気等の伝統的な分野に比較して，情報の分野は，これまで学会が次の世代の若手を積極的に育成しようといった姿勢が弱かったように感じます．それがまたこの分野のいいところでもあったのですが，放っておいても分野が拡大していた時代は過ぎて，自分たちの手で若い世代を育成するという姿勢が必要になってきているように感じます．

来年度からは学生会員の増強と育成のための委員会を設置する予定にもしています．皆様方のご協力を得て，平成16年度中に2,500名に近い水準まで学生会員数が増えつつあります．入会した学生会員の方々に学会が何をできるかを，タスクフォース，総務財務検討委員会，そして，調査研究運営委員会の席で検討を続けてきました．そして学生育成の面から魅力ある1つの措置がとられることになりました．平成16年12月の理事会において，学生会員には1研究会に限って登録会費を無料にすることが決定されました．学生の方は会員になると同時に最も興味のある研究会の登録会員となることができます．これはすでに学生会員になっている方々に対しても適用されます．現在，すべての研究会への登録会員数は，およそ5,200名です．また，学生会員の研究会登録数は380名程度です．それが来年度からは，3,000名に近い学生会員が希望をすればいずれかの研究会に登録されることになります．平均でみても，それぞれの研究会に100人近くの学生会員が登録されることになります．ぜひ研究会側では，研究会に入会した学生会員を育成していただきたいと思います．

また，学生会員の方々には，一番興味がある分野の研究会の登録会員になって，そこでの研究会活動に積極的に参加されることを期待しています．学会の会員減が続いているときに，学生会員の方々の研究会登録費を無料にすることは，かなりの財政的負担をもたらすのですが，それ以上に，私たち学会を運営するものが期待することは，研究会活動を通して，学生会員の方々が，それぞれの分野で大きく成長してくれることです．そして，学生会員としての期間が終了した後には，正会員に移行し，学会とのかかわりを継続していただくことです．繰り返しになりますが，学生会員の方々の研究会登録費を無料にすることなどの優遇策は，単に近い将来の会員増強が目的なのではなくて，それ以上に，若い方々に学会活動に積極的に参画していただきたいという単純な願いからです．そうすることが，その方々にとっても大きなメリットがあるでしょうし，いずれ将来は，この分野の発展，学会の発展にも大きく貢献することになるであろうと思うからです．

（平成17年2月7日）